

史料紹介：
黎朝碑文集 II

—— 黎朝開国功臣関連碑文（1） ——

八尾隆生

Bài Tư liệu:
Tập Văn bia thời Lê II
- Bia Khai quốc Công thần nhà Lê (1) -

YAO Takao

はじめに

10年に及ぶ明との戦い（藍山起義）に勝利して1428年にヴェトナム黎朝は成立した。その戦いには多くの人士が参加し、彼らは建国の後、「開国功臣」として認定された。彼らは官爵や土地を与えられるなど多くの特権を有したが、その中でも特に貢献大とされた者は、死後、国家より「国朝佐命の功臣」として神道碑を与えられることとなった。ただし、権力闘争に敗れた者や謀反の罪に問われた者（多くは冤罪であるが）などにはそうした恩恵は与えられず、実際にどれだけの人間が功臣碑を与えられたかは定かではない。また、その後の戦乱などによりかなりの碑文が失われていることも確かである。

編者は1991年から2年間ハノイに留学する機会に恵まれた。おりしもヴェトナムでは経済開放政策（いわゆるドイモイ政策）が効果を上げはじめ、学問の分野においても外国人が地方に赴いて実地に研究を行うことが可能となりつつあった。編者は留学先であったハノイ総合大学（現ハノイ国家大学所属社会人文科学大学）ヴェトナム研究協力センター（現ヴェトナム研究・文化交流セン

ター）や現地機関の研究者の方々、それに功臣の子孫の方々の協力を得て、主としてタインホア（清化）省内に現存する「開国功臣碑」の文面収集を続けてきた。しかし編者の怠慢のため、公開を遅らせている間に、編者に最も協力して下さったブイ・スアン・ヴィ氏（タインホア省社会科学図書館研究員・当時）は既に故人となられ、ファン・ダイ・ゾアン教授（ハノイ国家大学所属社会人文科学大学史学科）も病床につかれてしまわれた。収集作業はいまだ不十分な段階ではあるが、お二方への感謝とお詫びの念が今回の公開の動機となっている。

ところで、今回公開する「功臣碑」はすべてが「国朝佐命功臣之碑」というわけではない。後世の子孫が先祖顕彰のために独自に建立した私的なものや、神道碑とは性格を異にするものも多い。また、碑文の内容だけが家譜などに残って、原碑文が失われているものもある。以下ではまず各碑文の性格や情報源などについて述べ、その後原文を2号に分けて公開する。但し、収集時間、編者の能力に制約があるため、多くの誤写を冒している可能性を否定できない。その点、機会があれば補訂を行うということでご寛恕いただきたい。

功臣碑及び資料の来源

碑文対象者	建立場所	存在状況	拓本	筆写本	過去の公開	碑文の性格
阮熾	Nghệ An省 Nghi Lộc 県 Nghi Hợp 社	◎	?	◎八尾	×	功臣碑文にあらず
丁禮・丁蒲・ 丁列	Thái Bình省 Vũ Thư 県 Song An 社	◎	VHN	◎八尾	×	功臣碑文にあらず
黎康	不明	×	×	◎皇越文選	◎	功臣碑文にあらず
阮隻	TH省 Đông Sơn 県 Đông Ninh 社	○	×	◎家譜	PĐD, BXV	佐命功臣碑文
鄭可	TH省 Vinh Lộc 県 Vinh Hòa 社	△	×	○PĐD	×	功臣碑文にあらず
鄭公旦	TH省 Vinh Lộc 県 Định Hải 社	◎	×	◎八尾	×	功臣碑文にあらず
以下、次号						
黎抄	TH省 Thọ Xuân 県 Xuân Thiên 社	○	×	◎家譜	×	佐命功臣碑文
杜大	TH省 Thọ Xuân 県 Thọ Lâm 社	×	×	◎家譜	PĐD	佐命功臣碑文?
陳榴	TH省 Thiệu Yên 県 Thiệu Quang 社	◎	×	◎家譜	×	功臣碑文にあらず

略号：

TH=Thanh Hóa、VHN=Viện Nghiên cứu Hán Nôm, Trung tâm Nghiên cứu Khoa Học Xã hội và Nhân văn Quốc gia (国立社会人文科学研究センター所属漢喃研究院)

PĐD=Phan Đại Doãn (ファン・ダイ・ゾアン教授)

BXV=Bùi Xuân Vỹ (ブイ・スアン・ヴィ研究員)

記号：×=無し、◎判読極めて良、○=判読良、△=判読困難

<阮熾>

ゲアン(乂安)のギロック(宜禄)県出身。黎朝成立後、仁宗の擁立などで権力の中核にいたが、後に失脚。仁宗を倒して即位した廃帝宜民をカウンタークーデタで倒し、聖宗を擁立することに成功し、返り咲きに成功する。1465年没。原碑は存在せず、ギロック県ギホップ社にある彼の廟には、彼に与えられた神道碑と、彼が子孫に残した遺訓を刻んだ碑文が存在する。両碑文には聖宗の光順年間の年号が記されているが、阮朝時代の避諱のための欠画文字が存在する上に、内容も後世に書き加えられたと考えられる部分が存在し、後世に再刻されたことは明らかである。碑文は屋内

にあるため、保存状態は良好である。1991年10月に筆写を行った。

<丁禮・丁蒲・丁列>

タインホアのラムソン(藍山)郷出身。三者は兄弟で、黎利の母方の甥にあたる。丁禮と丁蒲は抗明戦中に戦死し、その代わりに丁列が重く用いられた。阮熾と同様に仁宗代には冤罪により投獄されたが、宜民打倒に貢献し、返り咲きに成功した。収録した碑文は、現タイビン(太平)省に移住したその子孫の支派が建てたものである。建立の年号は記されていないが、かなり新しいものである。第一面の「奉計諸尊陵墓以下」以下及び第二面は明らかに文字が異なっており、後

代に加刻されたものと考えられる。1998年12月に原碑の筆写を行った。又、ハノイの漢喃研究院には同碑文の拓本が所蔵されている。

<黎康>

黎康は黎利の兄黎除の子で、黎利に従って蜂起に参加したが、建国後は宗室を必ずしも優遇しないという黎朝の方針のため、やはり不遇のまま、出征先の乂安で没した。神道碑は現存せず、彼を祀った廟の碑文の文章が『皇越文選』巻3に収録されている。

<阮隻>

阮隻はタインホアのドンソン（東山）県出身の武将で、黎利とは別個に反明活動を行っていたが、やがて黎利の軍に合流し、明の根拠地の一つであったゲアン城攻略を献策するなどの功績があった。ただし、黎朝建国後は不遇で、1448年に没する。大和8年（1450）の建立年号をもつ国朝佐命功臣碑文、及び彼の墓はドンソン県ドンニン社に現存する。また碑文については、ファン・ダイ・ゾアン教授による原文の紹介と翻訳が雑誌『考古学』20号（1976）⁽¹⁾に、またブイ・スアン・ヴィ氏の翻訳が『ドンソンの伝統文化考察』（1988）⁽²⁾に掲載されている。また、ハノイの歴史博物館にはこの碑文のレプリカが改装前には展示されていた。1992年11月と1995年12月の2回にわたって、ゾアン教授が1970年代に筆写した文章を元に、原碑文で修正補足を行った。

<鄭可>

タインホアのヴィンロク（永禄）県出身。もと黎利の家奴であったが功績により、重臣となる。仁宗代に冤罪により1451年に処刑され、聖宗代に名誉回復がなされた。現地には彼をまつる廟があるが、最近再建されたもので、それ以前の廟の碑文と思われるものが現在の廟の裏の丘の中腹に立っている。摩滅が激しく、1970年代初頭のゾアン教授筆写文を底本にし、1992年10月と1995

年12月に原碑で修正補足を行った。

<鄭公旦>

鄭可の子。聖宗時代に頭角を現す。開国功臣ではないが、鄭可の事蹟を補えるものと判断し採録した。碑文の保存状態は良好で、1992年11月と1995年12月に原碑の筆写を行った。

原文及びその見方

まず、各碑文の共通記号であるが、“J”は原碑で改行を意味している。“□”は判読不能の文字が一字、“△”は複数文字（字数不明）あることを示している。

次に阮隻・鄭可の碑文であるが、上段はゾアン教授の筆写文、下段は原碑による編者の訂正である。下段が空欄であることは、筆写文と同じであることを示している。“◆”は原碑に文字があるにも関わらず筆写文に欠けている部分のあることを示している。そしてその下段にはそこに存在する原碑の文字が記されている。“■”は原碑に一文字空欄があることを示している。また、阮隻・鄭可・鄭公旦の碑文は出来る限り原型のまま公開したいと考え（縦横が逆であるが）、左右見開きの頁を利用している。そのため、左頁には“⇒”の記号を付し、文章が左頁から右頁に続いていることを示した。

註

- (1) Phan Đại Doãn, Nguyễn Chích trong cuộc kháng chiến chống Minh qua di tích và văn bia, *Khảo cổ học*, số 20, 1976, tr. 24-43.
- (2) Ủy ban Nhân dân Huyện Đông Sơn (soạn), *Khảo sát Văn hóa Truyền thống Đông Sơn*, 1988, Thanh Hóa, tr. 372-390.

<阮熾碑文>

第一碑

太師崗國公碑記」

公舊姓阮其賜國姓黎諱^焜考諱會妣武氏諱^核世居驪州之真福上舍畔社胡末兵變流離之際挈家」
詣藍京辰方玠歲及壯從」

太祖高皇帝起義師與其兄汴援涉山川衝冒矢石之際立成大定之勲順天元癸丑」

高皇帝臨崩顧命遺詔輔攝朝政歷相太尊仁尊迨于承平己卯厲德侯作亂是辰公雖居相位已解兵權於」
倉卒之間無以制變後唱大義盡誅屯般之黨國家中興復有回天之力 皇上念功進封為開國推」
忠揚武明義輔國佐理靖難中興功臣太原鎮驃騎上將軍特進開府儀同三司入內檢校太傅平章軍」
國重事管領鐵突中堅翊將鐵突左堅翊聖上柱國賜金魚袋金符亞郡公賜國姓位絕席其 考贈太」
保亭郡公 妣贈郡夫人妻妾皆有恩封而官其諸子未幾加封右相國太傅崗國公勲祿位秩各極品」
制之榮公為人剛而明勇而義臨事能斷親任天下之重故始終有大勲勞於國家及其寢疾也中使奉」
命齋賜勅諭壹道藥錢壹千貫問候不絕光順六年十月三十日甲辰薨于正寢享齡六十有九歲黨宁」
嗟嘆輟朝三日厚頒贈物賜祭治裝禮儀錢壹百貫辨於有司其贈太師崗國公特恩開國以來人臣生」
封死贈不斷之祝褒榮之文無與為比發引前一日大臣皆會祭以其十二月十三日葬于真福之地天」
柱原從先塋也國夫人黎氏諱^{玉璘}封淑人男十六長諱^師同入內少尉參預朝政駙馬都尉次諱^昶駙」
馬都尉嚴武衛總管同總知諸將事行順化道都總兵使司都總兵使三諱^化州神甲軍同知都總兵」
使司都總兵使四諱^{伯傑}奮武衛三輔國軍同知五諱^繼榮行順化道三輔國軍同知都總兵使司都總」
兵使六諱^達時清華道都總兵使司都總兵使七諱^{叔虞}一局正監都總兵使司都總兵使同知八諱^宗輝」
一局正監諒山處都總兵使司都總兵使同知九諱^景清宜國衛都總兵使司都總兵使同知十諱^中達」
達信大夫十一諱^福蛇一局正監十二諱^有充勲達衛管領十三諱^同寅玉鈴衛管領十四諱^仁寶嚴勇」
衛前所管領十五諱^文征清華道都總兵使司都總兵使十六諱^繼新尚幼女八長^{玉喜}次^諱玉璽嫁」
皇太子三諱^{玉明}四諱^{玉泰}五諱^{玉璠}六諱^{玉璣}七諱^{玉琮}八諱^{玉瑛}俱適勲貴家孫^{玉杜}以天屬封郡」
上公主^諱之女嗚呼公之事業如新德澤未艾磁石在其家庭勲望有光前世」

」
」
」

光順捌年拾月初陸日」

賜壬戌科第壹甲進士及第第壹名中書令特授承旨兼祭酒 阮直奉撰」
御前學生 楊壁謹寫」
左班雕經作局正伍長大智字 阮祿謹刻」

第二碑

先祖遺訓」

余乃驪州道德光府真福縣上舍社人也本姓阮諱熾生命丁丑世居海濱以煮鹽爲業少辰遭」
閩胡之末父親早缺從其兄汴挈家往從我」

太祖高皇帝於藍山辰余方玖歲 帝命教習群犬咸知進止 帝嘉其能愈益幸焉戊戌年正」
月初四日 帝見明賊恣亂愈甚於是殺象唾血盟誓遂率豪傑起義於藍山辰余年二」
十二 帝以兵符授余與兄汴期以戮力平賊十年之間與同諸將身經百戰艱苦備嘗詳在」
藍山堯錄明人蜂蠶頓消我國山河盡復戊申年 帝即位大會諸將定封行賞以余多有勲勞」
封爲開國功臣諸顯號亞郡公其兄汴擊賊陣亡 帝加贈太傅嚴郡公諡惠武府君順天」
六年 帝遺詔傳輔嗣 太尊文皇帝日夜謀慮興致太平迨至 仁尊延寧六年間」
有厲德侯黎宜民包藏禍心睥睨神器率屯般等夜辰踰牆弑 帝于宮申厲德侯篡位號」
稱天興辰余位居首相與文武大臣唱大義誅屯般掃肅宮禁奉迎」

皇上於藩邸登大寶繼天統 帝軫念余之勲茂開濟節勵精忠進封爲 開國推忠揚武明義」
輔國佐理靖難中興功臣太原鎮驃騎上將軍特進開府儀同三司入內檢校左輔右相國」
太傅平章軍國重事領管鐵突中堅翊將鐵突左堅翊聖上柱國賜金魚袋金符崗國公賜」
姓黎 帝加贈 顯考太保亨郡公諡福勝府君 顯妣郡夫人妻妾均蒙蔭庇所生男十」
六女八男娶公主女嫁皇尊各極品制之榮 皇上勅賜功臣祿田及余新買田土潭池」
在各府縣社處所置爲祭田及均分逐分留與爾等永爲產業今爾等見其好宅肥田之富」
當思及余披荆剪棘之勞見其歌兒舞妓之樂當思及余臥雪枕戈之苦余見李勣唐之名」
將終有敬業反逆之罪爾等宜取鑒焉曹彬宋之名將卒有燦璋將壇之登爾等宜效之焉」
爾子孫有能謹守家法以孝收功是余之孝子令孫或有違悖競起爭端爾等宜表奏于朝」
定坐不孝爾等同記吾言不可忘也」
一祿田共五千壹百參拾五畝至西山朝盡行編收」
一造買田土共柒百陸拾畝零今現存干計后」
一有遼州人於奉行征討平吳之辰收回具奏 勅准爲家奴許居在同翊私田土處此田」
及奴人傳子孫世代香火即今富益社」
一有占城國人奉從駕征占之辰收回具奏 勅賜世代爲奴人許居泡汚私田土處即今金崗村」

」

光順參年五月拾貳日」

太師崗國公遺訓」

從事舍人掌書記 阮明德」

<丁禮・丁蒲・丁列碑文>

第一面

前黎洪德丁氏三國公記」

丁氏之先清化瑞原翠檜人也祖穆惠大王王妃神溪都奇社人生雄國公公夫人乃黎」
太宗之妹生三男□勇絕倫以 皇家肺腑之親育應義旗參陪左右艱關百戰大著勲勞第一位」
封太師彬國公加封顯慶王第二位封太保定國公加贈靈感王第三位封太師麟國公加封忠」
穆王鐵券丹書山河帶礪國有史家有乘勲業彰然觀其佐 太祖戊戌興師以後鄭臯禦賊□」
水奏功何其勇也芒崗設謀蹙險決勝何其智也崑丹茶麟之勝可留崑崗之威才畧出人神機」
鬼運不謂經綸草昧天假精忠眉崗之攻彬國公不屈於彊虜哀牢之戰定國公効力於疆場天」
下聞之莫不震悼麟國公叶與諸功臣擒朱桀斬陳洽殺柳昇走沐晟輔成帝業惠此南邦」
仁宗太和年被讒幸得大臣鄭克復力救乃免宜民之難內有甥孫清國公吳漢讓國公吳蘭盛國」
公吳鴻美國公吳厲等密贊嘉猷以清社稷外叶諸大臣阮熾黎凌等倡義誅奸翊戴」

聖宗晉封輔政洪德元年隨駕征占二年卒」

聖宗親爲文致祭焉史稱公以開國元勳歷事四朝再爲中興第一功臣位望巍然自光順六年以」
後爲督將幾千年既大疑決大論帝篤信之朝野倚重由此而知三公之功垂諸萬世故併記之」
以爲後人明鏡」

前黎聖宗淳皇帝晉封麟國公制」

光順元年論定策功晉封丁國公開府儀同三司平章軍國重事入內太傅亞郡公制曰蓋聞有」
聖智之君必待賢明之輔相與以大有爲有非常之才方立非常之功以克自樹於世君臣相得」
今古同然具官□早以肺腑之親出應風雲之會填鳴篋應諒難弟以難兄廟算邊籌竝爲相而」
爲將進退之際休戚攸同貫一節於險夷忠貞日篤受兩朝之顧命弼亮功多允爲社稷之臣均」
屬鈞衡之寄勲庸益茂遐邇噴瞻雖青蠅營營構讒言之罔極而赤烏几几知德音之不環蓋天」
惟欲治平於理豈能久屈況以頃遭否運忽然禍起蕭牆嘉爾忠貞爲時柱石一旦倡復讎之義」
再振皇綱三軍同左袒之心竟清大慙克登厥辟宜茂厥官於戲決大策濟大事實今古之所難」
以一德輔一人尚始終之無間欽予時惟乃之休 奉計諸尊陵墓以下」

國太夫人丁氏玉繼陵在喬神村卯亦處貳畝禁地」

廣淑太長公主陵在安福村柴木拾貳禁地」

國公丁太惠陵在嘉會村宜處壹畝貳高柴木禁地」

芙蓉太長公主陵在諫議村卯議處參畝柴木禁地」

(注)「奉計諸尊陵墓以下」以下は後代に加刻の可能性大

第二面

丁家世次及諸尊位陵墓并前朝準給祀田處所計鑄于左」

先祖考丁宗清前黎朝贈封穆惠大王祖妣神溪縣都奇社人生下」

祖考丁宗仁贈封太尉雄國公祖妣黎氏玉粒封國太夫人生下三男」

長男丁禮黎朝贈封平吳開國推忠贊治翊運保正功臣太保彬國公奉賜國姓洪德元年加贈太」

師後加封顯慶王陵墓在藍山美林册正月十三日忌妣裴氏玉柳封國太夫人陵墓在藍山德茶村」

九月十八日忌生下丁功忠丁功惠丁功泰女子丁氏玉繼配洞滂人裕王吳慈篤生」

聖母吳氏奉侍 黎文宗皇帝挺生 黎聖宗淳皇帝」

次男丁蒲黎朝贈封平吳開國功臣太保定國公奉賜國姓加封靈感王陵墓在興元縣福田」

社正月十六日忌妣黎氏玉順封國夫人陵墓在藍山朶秀村三月十六日忌生女子丁氏玉班」

奉侍 黎太祖高皇帝」

季男丁烈黎 聖宗皇帝奉陞靖忠竭節翊運宣力功臣特進開府儀同三司入內點校平章」

軍國重事兼內外兵民詞訟上柱國陳監鐵軍中品奉御太師麟國公奉賜國姓加贈明義叶謀」

同德功臣兼太子太師加封忠穆王陵墓在美林册十二月十一日忌妣黎氏王富封國夫人陵」

墓在石內社生下丁功突丁功獻女子丁氏玉枚 前黎功臣丁派孫姪黎功榮黎功儀等欽奉」

勅旨奉事篤祜殿」

聖母皇太后及諸尊位并四陵所等累累欽奉准給祭田在安老社地分內殿柴木坎畝土宅」

在諫議村篤園處陸高淡議參高及在福慶社二村布同內赤樓園等處實田拾參畝各」

共內殿土居及田貳拾貳畝坎高子孫認以耕居脩作殿堂奉事週年生辰忌辰四時八」

節等禮奉事如儀」

<黎康碑文>

武穆公南界廟碑阮如堵奉撰

黎文

廟在天祿縣牧阜社

天佑皇家賚之良弼贊武功於乾坤草昧之初弘治化於方國安寧之後勲勞存於社稷威聲振於殊俗恩信結於人心者武穆公其人也公

太祖高皇帝仲兄之子也公薨之十八年其嗣子入內大行遣門下省左司左納言知南道軍民簿籍臣景瑜奏言臣之先臣魁歷事

○三朝位列將相生有榮稱死有諡號始終之寵盛矣然臣追念先臣昔日經理乂安之地以宣敷

○皇化民至于今思之不能忘立祠於南界海門以奉事之臣實無侶似同未有碑文以記其事惟

○陛下哀憐之假寵於宗室之臣以勗其子孫

○詔可其奏以命祠臣撰文臣如堵職兼詞翰不敢以淺拙辭維公生有奇表為人雅重寡言笑里兒巷婦外及夷狄咸知其名稱初從

太祖高皇帝起義師左索韃右鞭頭出入行陣經營四方劃古剪字除暴亂恢復都邑宣忠底績厥惟懋哉累受麟虎衛上將軍行軍總管入內少尉佩以金符順天三年

○帝以國家甫定蠻方未附而化州舊壤介於占國非有重臣制閩則無以暢

○皇威壯吾圉週頒公行旌節所過吾民聚觀者相與言曰化州得此良翰南陲無事矣公至罷斥嶺撤嚴警惟務招輯流移勸課農桑訓練士卒慎固封守政嚴而和民敬而愛海道日以澄清而占人自畏其威慕其義昔日嘗掠我邊民數十至是以禮遣歸迨守將及修貢介使往往訪公所在存問安否其威德聞于夷狄者雖宋韓琦范仲淹安撫陝西而西羌憚之誦歌其賢者亦不過此四年召公還征太原公秉節治戎出征入衛有勞有勤

○帝深器重其能以爲可屬大事賞御袍金符六年召公便殿問以建立

○皇儲遂定策焉賜金符題曰公瑾投龜

太宗皇帝即位拜入內司馬參知政事順化哀卒之役公之勞動居多進封入內都督參預朝政後以事落職

仁宗皇帝太和元年復拜入內少尉知乂安府乂安之民素已知公之名仰公之賢及聞公來莫不舉手加額歡呼相慶曰吾民望公久矣天其或者今日有以福吾民乎數年之間政平訟理歲稔民康頌歌公之德政者聞于街巷蓋公平易近民而民悅之故也三年占主賁該匪茹匪度寇我化州公領兵赴援一鼓而大破之封入內參預朝政復留鎮乂安以其將有平占之舉也明年命將出師公以其本兵率先啓行既渡海初臨賊境賊之守將見我師約束嚴明部分整肅知公之軍傳呼曰將軍者非司馬公乎公免胄示之賊下馬羅拜投餽方物而無與爭降是以公之所向賊必望風奔潰曾無堅敵卒能用長纆繫降王振旅而還捷書纔奏而公中途病亟遂薨于南界海口龍吟山下南征將士皆爲感泣訃聞九重震悼輟朝三日勅有司吊葬贈入內都督諡曰忠獻後加贈入內檢校司空平章事改諡武穆既葬之後乂安之民思公遺德相聚謀曰武穆公布宣上德以撫安我民戡定外患捍衛我國功之大德之厚吾民其可忘耶乃於公即世之處廟而祀之凡遇旱潦疾疫罔不致禱禱則有應然則武穆其可謂有功於民者矣夫古者有功於民必思念之不已則必立廟建碑以寓其敬愛之心考之先誌羊叔子都督襄陽德信及於民死之日即硯山建碑立祠歲時享祭狄仁傑刺史寧州撫和戎落得其驩心郡人勒碑以頌又遷魏州政不勞民民愛仰之復爲建祠况公之生也忠勤可以定國恩愛可以澤民威聲可以服遠則其沒也千古精靈之氣凜然若存當時嘗受其賜者即其事而思其人思其人而感其德豈不愈久而愈不忘乎於戲政之善而能使人不忘者法固可書人既往而能追念其德者事亦可書

○國家重此二者以表見於後世激厲於人心其關係於世教大矣豈特示寵於武穆公一家而已哉是尤可書也若夫公之行狀勲業官次子孫具見於神道碑茲不復書

光順四年癸未五月初三日榮祿大夫門下省左司左諫議大夫知北道軍民簿籍兼翰林院中書省臣阮如塔奉撰

<阮隻碑文>

國朝佐命功臣之碑」

推誠保政協謀功臣聶江鎮輔國上將軍特進入內都督參預朝政行軍總管下南策衛諸軍事上柱國賜
正

天生聖君撥亂反正除亂救民開億萬載之太平必有佐命之臣同心同德戮力相須以成莫大之功夫豈偶然

太祖高皇帝應天順人奄有區宇當草昧經營之際手三尺以定風塵奔走先後之臣疏附禦侮之士出應大有
□

道時則有若東山黎公知天命之所在試帝王之有真乃決志從游樂為之用當此之時非徒君之擇臣而

張公出沒狙擊以故東山一邑賊不敢縱兵哨掠其參政梁汝笏用計招誘餌以大官公遁去不從」

帝養晦藍山以書潛諭公即殺牛養士出戰古魚堡汝笏敗走遙授榮祿大夫麟虎衛大將軍尋又杖策謁見賜
□ 無

麟虎衛上將軍◆關內侯賞官田壹百畝時駐營惇忙公在黃◆桐阻遠賊常來攻乃挈家屬及將士妻子
爵 一 忙 山

帝嘉其誠命領鐵突右衛同總督諸軍事又移營催忙菜岩哀牢力強來襲我軍公冒刃奮不顧身陞入內少尉
□□ 管 忙菜□ 彊

結陣公乘隙擊走而賊將馬騏山壽邀截廩路公設伏斬賊將馮貴休兵盡山糧絕」
□ 露

帝殺象襲勞奉命捕亡賞資優渥癸卯春師回藍甸」

帝問群臣將何往以圖國事公從容對曰臣嘗歷涉乂安熟知險易宜入據琴彭峇順則撫之逆則取之徐出東

金魚袋銀符亭侯賜國姓加贈入內檢校司空平章事諡貞武黎公諱隻神道碑銘并敘」

」

哉洪惟我」

」

爲之運君臣相得魚水一堂是以東征西伐丕應後志皆由駕馭之盡其才收攬之得其」

」

臣亦擇君也公之爲人寡言笑篤厚至誠倜儻有大志不事產業時大明吞併我國虐焰方」

□ 稠

」

爵上智字着侯服仍回本縣擊賊有功授本府都大府管綵督軍民擊破黃山賊砦加授」

服侯

」

歸附」

」

領北江聖翊軍諒山鎮招討使賜金魚袋銀符關內侯壬寅冬哀牢又於傑忙葦峙立砦」

金

忙

」

都則國事可成」

」

將方政等領軍竝進公陣前奪稍虜衆瓦解丙午春軍于宮雷江口公以父安北軍及天

」

公日夜急攻悉皆掃蕩丁未冬賊將沐晟由梨花來援公遡江迎戰一鏃無遺賊將王通

梨 逆

」

事離職尋擢榮祿大夫車騎將軍總知中北江衛諸軍事紹平二年乙卯秋攻玉麻州生擒

」

車之初整擗器械浚築城池練習士卒蓄積糧儲縱使間諜措置得宜大寶三年壬戌秋

」

親率兵象海船圍化州城時援兵未至軍士寒心公獨固守日夜縋城出戰身先士卒賊

」

將盤麻窳茶菴核盡獲賊船餘皆溺死奏捷遣官齎詔褒美以爲萬里長城陞保政功臣入內

齊 正

」

餘艘貢該宵遁公分軍以宣撫使阮遼守城自領兵追獲王舶戰船不可勝數殺其將耽收

逃 僚

」

算陞推誠保政功臣鎮國大將軍榮進入內大司馬參預朝政行軍總管柱國字號侯以此觀

正

」

之雖古所謂收滴博雲間之戍奪蓬婆雪外之城與夫夜半入蔡城擒吳元濟者蔑以加矣丙寅春朝庭以
廷 =>

王孫左貴來等徑入闈槃生擒賁該懋成厥功回京奏捷加封推成保正協謀功臣磊江鎮輔國上將軍特
□ □□ 誠 =>

其大由子立志之堅見事之早運籌之密應變之速故能以忠義感將士德化懷遠人守絕域◆孤城作一
乎 □ 之 =>

朝庭而為天下之所景仰者豈有他哉一至誠之所發也誠者真寔無妄之謂也誠於事君則君賞其忠誠
廷 佗 實 =>

河為之失除誠乎誠乎其萬事之根本乎傳曰誠則形形則著著則明明則動子思子豈欺我哉戊辰冬十
□ □ 也 =>

上悼惜輟朝贈贈有司具葬儀命入內都押衙參預朝政黎秘論祭加贈入內檢校司空平章事諡貞武給太常
□ =>

生三男仲季早夭長則公也公娶夫人徽人阮氏彭有男曰公正為武節大夫御前火筒隊長雲騎尉上
□ =>

詔撰詞乃為之銘曰 猗歎
□□

高皇 德合乾剛 手提三尺 奄有萬方 =>

帝鄉 杖策從游 魚水一堂 公奮厥武 =>

蜂毒荼苦 一網無遺 邊氓鼓舞 蠢茲占寇 =>

扼腕拊背 義氣摩空 勇力百倍 嗟嗟賁該
□□□ □□□□ □□□□ □□□□ =>

占城屢寇荼毒邊氓出師問罪公領前鋒擊賊於昇華思義等處與都將計議算無遺策誘得」

」

進入內都督參預朝政行軍給管下南策衛諸軍事上柱國亭侯銀符鳴呼公之功業如此」

」

方保障功名滿邊鄙事業滿」

」

於治民則民感其惠以之御衆則恩威相濟而士卒得其死力以之擊賊則勇氣百倍而關」

」

一月二十六日公以疾薨于其第年六十六」

」

寺祀己巳春三月初二日葬于本鄉之麻澤公會祖姓阮諱拜祖妣阮氏諱姚父諱僚妣黎氏諱穩」

」

僚班曰占臘爲入侍學生上僚班女曰玉璋 己巳秋其子公正奏乞立◆以永其傳◆舜俞奉」

碑

程

」

時惟黎公

羶翔」

」

閔如鳩虎

馮貴喪元

黃誠授首

狗噴噬邊」

」

馮陵狡獪

圍我邊城

怙終罔悔

公運奇謀」

」

昏慘無知

□□□□

敢讐大邦

□□□□

累次攻圍」

□□□□」

帝赫斯怒	命將出師	公領前鋒	渡海如飛	⇒
□□				⇒

	一念至誠	三朝良佐	功絕旋常	澤流天下	⇒
					⇒

天不愍遺	輟朝贈贈	伏賜葬儀	曷勝憫惜	⇒
□□	□□□□	□□□□	□□□□	⇒

帝念功	復讐滅寇」			
□	□□□□」			

聖澤普施	幽泉滲漏	奉」		
□□□□	□□□□	」		

詔撰詞	勅珉垂後」			
	」			

太和八年庚午孟夏上澣日宣奉大夫入内行遣翰林院翰林承旨學士知三館事兼知入内近侍諸局入侍經
大侍 ⇒

勅撰賜進士第中議大夫中書省黃門郎雲騎尉列郎臣阮覽奉書 御前學生令書家臣臣杜全老奉篆額」
金 」

御 ⇒
⇒

擒王奏捷

取威定霸

方敘勲勞

嫖姚聲價」

」

召回寵賜

董我戍師

遽薨于位」

」

杳杳何之

其子公正

樹碑顧奏

惟」

」

筵上輕車都尉◆上智字臣程舜俞奉」

大

」

前左班羅經作局侍衛人火上僚班臣阮天祿奉刻」

」

< 鄭可碑文 >

△△△△△□□□□」

烈堂碑銘」

大南生取之帝必有□之臣以輔舉大業□□◆◆◆◆◆山河舉萬古□□□◆◆◆◆◆與◆ ⇒
△△反正 主 □ □ 之業以弼不世之功帶□ 與 誓其始終出入將相 ■ ⇒

偽見前問□於我朝得□揆面濟之曹木周勃漢之東京之馮異耿弇異漢與夫唐之李靖尉遲敬德段 ⇒
△△△△△ ■朝 西漢 □ □□ □ 吳 ⇒

今□之着神人然世不□□時◆有得◆◆◆◆人莫助之若推誠贊治◆◆靜難功臣太原鎮驃騎上 ⇒
□□ 賢 □ 我保國之受 揚武 ⇒

國◆□魚袋金符國上侯賜國姓黎公□世鄭氏程朝時其祖□□□役有功及其先人隱德弗昭胡◆ ⇒
賜金 先 ■祭 □ 氏 ⇒

而於時南□將降大任於折人心用其將□聞」
□奴□□天 所 必困 □ 」

太祖高皇帝藍◆◆山□□之志□公亦知帝王自有真逃難□□□而委□為臣◆◆帝亦灼見公有將帥 ⇒
□□□ 士□有 深 就 質 而■ ⇒

前從父安濱州西京東京◆勞戰◆◆有功賞從日月中天論功盟府加金紫光祿大夫◆麟虎衛上 ⇒
洲 □□□□□□ 及 左麟 ⇒

之間朝日月之下人□□□內及東西南北四道耶太監內外諸軍事代伐耳目兼◆宣光鎮招討使環 ⇒
都 我 知 環 ⇒

□□□行軍總管車□□諸軍事◆◆領鐵突後聖翊軍兼之御前鐵突每隊時哀牢盤昆姑新立其臣 ⇒
於加 □ 同管 □ 知 ⇒

高帝◆軍命公領兵出征而出奇制勝◆踰居多遂定昆姑殲軻賴凱旋之日 上美其功陞保正功臣金紫 ⇒
□□ □略 □ ⇒

太監內外諸役柱國賜金魚袋銀符烈侯其制詞◆◆仁睦三江王通為之膾落梨花冷水沐晟為之魂 ⇒
有日 □ ⇒

國家同其休戚夫豈無自而◆耶蓋有以也邇觀往謀」

然 謀」

志玄功偉績勒之金匱石室大羽長劍省之雲臺凌煙至」

□ 」

將軍特進儀同三司入內檢校◆◆◆軍國事太監諸役上柱」

太尉平章 」

◆◆明國特彊郡縣南土公之父母竝為亂兵所害而公 被掠」

失德 亦 」

之才有公之輔之器遂任◆驅馳授◆太監而使之」

以 以 」

將軍賜金魚袋上輕車都尉銀符周旋禁闕眷益深綱終帳依」

紵 」

衛周慮夙宵匪懈有王陵大亮之岡所謂腹心爪牙維公兼之」

虛 風 」

軻賴有不臣之志昆姑進象納土願為子以求援」

」

光祿大夫梁江鎮冠軍將軍入內少尉參知海西道諸衛軍事」

□ 」

消盡嘉其前功為公與文巧領兵扼雲南之兵是時維公未專節」

雖 」

□而然勝成功時議實規於公自此 聖□日加柄任日重刑鼎道成烏號弓愍◆懼盛滿不安于位誓 ⇒
制 決 歸于 春 □公 ⇒

◆陵任御前任雋人以公 先帝所親任◆授榮祿大夫行軍總管海西道車騎衛諸軍事管領鐵突後 ⇒
□ □ 復 ⇒

政事◆◆出入疾至大漸公侍奉湯藥不離護梓宮◆還都道□□益駕于度淵捧◆紅日於黃道為三 ⇒
大駕 □ 以 □ 於□ ■ ⇒

奉止敕政□□□以公勲□□信重◆時加委任◆陞公推誠佐俚揚武功臣磊山鎮鎮國上將軍特進入內 ⇒
今上初 朝 親 臣特 又 理 江 ⇒

□入御□□□大邦為仇□□為兵兩度功圍化州城 皇仁如天不忍◆◆生□被其荼毒命公提偏 ⇒
△△△△△△ 攻 一方 ⇒

□□公◆入屍耐□◆◆◆與左貴來軟血郎浦使拾貴該來降而立貴來為王卒城取威定霸之功師還」
△△ 先 □□又□ □ □ 檢 成 □ 」

△△△△△□□□△△△△△自致而公獨效美于君而推木其祖先之餘慶勒之嚴往以語子孫◆垂 ⇒
以 功 旌本 □ 以 ⇒

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ ⇒
水 法 生異人 有如 翼戴義 為佐命臣 梨花冷溝 誓不顧身 ⇒

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ ⇒
在御 大駕時 疾弗彌留 大漸之辰 公扶 駕 喪禮躬親 捧日登天 ⇒

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ ⇒
以祖 獻于大昕 戎極品 復以殊恩 公不自居 歸于先人 ⇒

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ ⇒
古今絕倫 公其 竹帛揚 維 汾陽 福祿孔嚴 公 大 ⇒

△△△△△△△△△△△△△△ ⇒
⇒

出爲諒山鎮宣慰大使來□◆爲南策下衛同總管」

未幾復 』

聖翊軍太監御前之軍知御前鐵突中軍諸隊事旋加入內少尉參知」

六 』

朝◆◆維公有之以此加保正功臣金紫光祿大夫入內司馬參知政事」

元老 』

都督平章事行軍同都總管西道諸衛軍事太監諸役上柱國」

□」

師◆往問罪而命太尉司寇二公總諸」

先 』

無窮敢系之◆銘曰」

以 』

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□」
沐晟霄遁 不返隻輪 濯征忙湯 制勝如神 繡帽貂裘 勇冠三軍 仁聲先路」

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□」
正笏垂紳 屹如大鼎 定策元勳 實該無道 屢 邊民 罪惡貫盈 干天隄聞」

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□」
新建祠堂 敬遵禮文 歲時展敬 光賁鄉扮 移孝而忠 始終持循 知無不爲」

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□」
子孫成群 與國匹休 鄧禹曹彬 太尉之功 口碑如新 凡百有位 矧此堅珉」

△△△△車都△△阮夢荀△△△△御前左班職經作局大上僚班阮天祿刻」

火 』

<鄭公旦碑文>

贈舒郡公鄭公之碑」

」

大越國贈舒郡公鄭公神道碑」

公姓鄭諱旦字克明青華永寧人也父諱可當」

太祖皇帝創業之時結髮從戎戰野攻城居多勞動天下平定授」

太祖」

太宗皇帝權隆內外念篤忠勤」

太宗皇帝東巡陟方于外親承顧命輔立」

仁皇官授太尉平章軍國重事太監內外諸役體國奉公盡心竭力薨歿之後贈推忠贊治揚武靖難功臣太 ⇒
未受封爵公以 紹平四年丁巳七月辛亥生 光順元年」

聖宗皇帝中興大業以公開國勳舊之子且有學問識達之資擢自指揮副使超尚書省右司同知南道軍民 ⇒
又授宣慰使權工部左侍郎 光順九年爲宣光等處贊治承宣使司承宣使同承勳資治尹」

洪德三年陞工部左侍郎嘉行大夫未幾除爲山南等處贊治承宣使司承宣使是年十一月宣光守臣 ⇒
上命延河伯黎希葛等爲征蠻將軍以公爲贊理軍務領兵討平之後又爲工部左侍郎數年拜爲工部尚書 ⇒
大駕征老撾廟升規堂□爲六將軍營分六道竝進以都督黎廷彥爲鎮虜將軍公爲之副從王麻道進攻老 ⇒
□黎廷彥軍駐于下流賊將率衆來攻公乃從上流放其所獲軍□沿江而下賊徒見之自相驚潰兩軍 ⇒
大振所向無前差處下阮廷傑等齎捷書奏于 御營時」

大駕至茶麟府祁山縣諸營未聞聲息鎮虜捷書先至」

天顏喜色大萃歡聲□降聖書特加褒獎公及廷彥邇大江而上攻破各洞賊徒斬賊二千餘級俘虜不可勝 ⇒
卿仍兵部尚書 洪德十三年父安邊臣風聞老撾國人欲圖報復□以上聞」

上命公爲都督同知階昭毅將軍欽差總鎮父安等處軍務居一年軍政脩明邊寧謐召還再仍前兵部尚 ⇒
宜陞迺拜爲崇進宣祿大夫正治卿賞通資四級兵部尚書如故時國家無事政簡刑清」

上以公出於勳舊之家踐揚中外之任諳達政典積累勞能在廷之臣無出其右乃進封爲定功伯階特進金 ⇒
命同平涼侯黎志審聽天下獄訟之事夫國家重事在兵與刑非公正通達之大臣不可委任公職司兵 ⇒
見至朝廷大小政事莫不詢諮任用人才莫不徵訪」

君上隆其體貌庶俛仰其典刑目爲當時賢佐也暨夫」

聖宗皇帝賓天」

今上皇帝嗣服議定禮制輔弼新政公之規畫居多以是進封定公侯恩賞尤隆倚注尤篤國之柱石朝之耆 ⇒
旬公感寒熱病」

上屢命中官就第存問及差醫官診治然病勢往來殊非全效九月十六日甲寅薨時年六十一也訃聞」

上深痛惜爲之輟朝賜慰錢十八萬護送葬儀物件咸備贈舒郡公諡恭亮喪還之日命官諭祭飾終之 ⇒
以徵載籍凡先世有勳勞於國家者後嗣子孫罕能循禮義之閑率皆爲驕後之習若夫公則不然少而 ⇒
不敢踈放處已接物各得其宜事上取下咸盡其道尤能警飭諸弟訓誨諸子故公之家風愈□而愈振 ⇒
盃之鄉長子戶部尚書敬眞敘公之行狀請作碑銘愚辭不獲略述梗概敘而銘之使後之人歲時上者 ⇒
著在國史男女兄弟存於家譜詳且備矣茲不復贅銘曰」

尉上柱國烈郡公嫡母段氏贈烈郡夫人生母裴氏」

簿籍階上騎尉又歷武職同知副管領同總知等官」

飛報境外山蠻侵擾此鄙」

又轉兵部尚書 洪德十年」

搗下流初破殊綠關徑至局蒙地公與廷彥分兵攻」

夾擊斬馘甚多沈江流而沒者不可勝計自此軍聲」

計師還之時賜賞功銀牌三面陞光建大夫勳正治」

書勳階如故時朝廷以公久居兵部勳庸堪紀品秩」

紫榮祿大夫勳上柱國通資上制兵部尚書如故特」

部殆二十年審聽刑獄僅十餘載委任之隆於此可」

□深有所望不圖人事難心數難逃是年六月中」

禮甚隆厚也嗚呼古人有言世祿之家鮮克由禮是」

學問則詩書之訓不敢怠違長而仕宦則箴規之言」

愈久而愈光也 是年十二月十七日歸葬于永寧金」

得以仰之道途經過者咸知武之若公之德行功」

聖祖天啓	太尉雲從	被堅執銳	德協心同	弼成帝業	多賴駿功	席登台揆 ⇒
克承先志	益振家風	爲子止孝	爲臣盡忠	文階武秩	祿厚官穹	星辰聽履 ⇒
出持節鉞	威振遐戎	入司鼎鉉	治佐時雍	朝推硯輔	國仰宗土	女侍朱邸 ⇒
門□愈盛	操履愈恭	滿盈是戒	謙抑是崇	先帝上賓	痛抱遺弓	嗣皇踐阼 ⇒
蛇年甫屆	水稼□逢	下孤人望	上軫淵哀	恩敦念舊	禮厚飾終	即遠有期 ⇒
卜宅于茲	劔佩深藏	公之聞望	播在巖廊	公之勲烈	紀于旋常	聊借文墨 ⇒
千齡突兀	百世昭彰	山河帶礪	同其久長			

大越洪德二十八年歲次丁巳十二月十七日光建大夫翰林院承旨東閣大學士兼園子監祭酒正治御申 ⇒

叩佩侯封	篤生令嗣	曰恭亮公」
兵甲藏冑	廟堂贊畫	樽俎折衝」
男尚華纓	伯仲孫姪	布列外中」
功茂攀龍	古今勲閥	鮮克追踪」
返乎故鄉	永寧之區	水秀山光」
竊效稱揚	勒諸堅歎	揭諸玄堂」

仁忠撰」

(広島大学大学院文学研究科助教授)